

# 「逆境の中で」

令和4年度学校説明会（保護者向け）スピーチ原稿より

京都大学理学部1回生  
茨木高校74期卒業生

僕が茨高に入学したきっかけは、ちょうど四年前の学校説明会でした。当時、茨高のことをあまり知りませんでした。その説明会で衝撃を受けたことが一つあります。説明会を生徒が準備し、運営していたことです。学校説明会は学校の先生が説明するものだと考えていたため、驚きを隠せませんでした。そして、茨高の先輩から、行事にかける思いや、茨高の生徒の自主性を大事にした学校の雰囲気や、この説明会で直接教えていただきました。この説明を受けたこと、さらに、先輩方が実際に説明会に参加している姿を見たことがきっかけとなり、茨木高校を受験し、合格することができました。

茨高の魅力は数えきれないほどたくさんありますが、そのうちいくつかを紹介します。まず、生徒が積極的に行事に参加するところです。僕は学校行事が好きで、どの行事にも全力で取り組みます。僕が中学生だった時、あまり積極的でない生徒が多かったため、もやもやすることが何度もありました。だから、高校は行事を生徒みんなで楽しめる学校に行きたいという思いがありました。茨高はそんな僕のためにあるような学校でした。

体育祭は一度新聞にも取り上げられたことのあるほど大きな行事です。リレーなどの競技はもちろんですが、マスゲーム、応援団といった演技、そしてマスコット制作に力を入れています。マスゲーム、応援団の衣装、振付、さらに応援団の太鼓の譜面、マスゲームで使う音源の選定もすべて自分たちの手で、試行錯誤して作り上げます。マスコットは、骨組みとなる竹を採取するところから始まります。制作だけでなく、ダンス、劇など、オリジナリティ溢れるアピールが要求されます。

僕が三年生で経験した体育祭は、コロナによる制限が数多くありました。本番以外でのマスクの装着、消毒の徹底、競技の削減等、さまざまな困難が待ち受けていました。僕は当時副団長を務めていました。団の旗を作りながら、感染症対策が確実に進行できているかの確認や、総団長のサポート、名簿作りなど、たくさんの仕事を担いました。炎天下での練習は、非常にハードでした。さらに、三年生ですので、受験勉強もおろそかにはできません。しかし、踊りやマスコットが完成されていく過程を楽しみ、優勝を目指して全員で取り組み、本番をやり切った後の達成感は一生涯忘れられない思い出です。

他にも、宿泊野外行事があります。他の高校でいう修学旅行にあたる行事です。一年生の時に決める、生徒で構成された委員会中心に、行先や内容を決定します。僕たちの代は、生徒の投票で、ベトナムに行く予定でした。しかし、僕たちが野外行事を行う時期にちょうど

コロナウイルスが蔓延し、二度の延期、さらに行先の変更を余儀なくされました。最終的な行先は東北地方になりましたが、ちょうどコロナウイルスの感染拡大が深刻になったため、一月の出発一週間前のことだったと思いますが、中止となってしまいました。もう宿泊野外行事はできないとあきらめかけていましたが、生徒の行事委員会が、どうにか形を変えてでも実現したいという思いで、3年になってからですが、その代替行事を、茨高で企画してくれました。現地の人とオンラインで中継してお話を聞いたり、ダンスやお笑いなどのレクリエーションをしたり、東北の食べ物を茨高で購入したりなど、たくさんのイベントを楽しみました。最後まで諦めずにがんばってくれた委員会の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

次に、忘れられない思い出をもう一つ紹介させていただきます。高校二年生の時、コロナウイルス感染拡大の影響で、体育祭は中止になりました。この決定は、クラス代表の集まりである生徒議会で行いました。生徒議会は、生徒自身が意見をぶつけ合い、議論を行い、最終決定を下す場です。僕はこの議論にクラスの学級代表として参加しました。先ほども述べたように体育祭は一年で最も大きなイベントです。どうにかして開催したいという人もいれば、コロナの感染拡大を踏まえ、感染すべきでないという人もいて、常に意見が真っ二つに分かれていました。この議論で一番心に残っているのは、なんとか最後の体育祭を実施したいと思っている当時三年生の先輩が、コロナ対策をしながら、体育祭を開催するために、36ページの資料を作成し、新たな開催案を生徒議会に提案したことです。この資料は今でも学校に残っています。議論は二時間に及ぶこともありました。最後、学級代表の投票によって開催するかどうかが決まります。先輩が本気でぶつかりあう光景をみて、苦渋の決断で、票を入れたのを今でも覚えています。結果、たった一票の差で体育祭の中止が決定しました。この経験は、苦しい思いも何度もしましたが、生徒自治を掲げる茨木高校でしか体験できないものだったと誇りに思っています。

他にも、部活動も茨木高校では活発です。加入率は掛け持ちを含めると、100パーセントを超えます。僕は、軽音楽部に入部し、部長を務めました。最も大変だったのが、コロナウイルスによる制限で、活動停止を余儀なくされたことです。当時は、不要不急の外出を控えるようにという風潮が非常に強かったです。そのため、僕を含め、音楽等の文化活動をしている人々は、肩身が狭かったのです。僕は、文化祭を開催して、仲のいい友達やお世話になった先生方に、クラブ活動の集大成を見てもらい、音楽を楽しんでほしいと思って、動きだしました。どうすれば、バンド活動を再開して、発表までたどり着けるか、部員や、他の文化部の人、そして先生方と何度も話し合い、試行錯誤しました。その裏では、手を抜くことなく自分のドラムの練習もしていました。正直この頃が一番忙しかったです。そして、観客、ステージ間の距離を7m とる、手指消毒を徹底する、観客は間隔をあけて椅子に座ってもらうなど、厳しい条件の下、文化祭を開催し、ライブを無事行うことができました。努力が実った瞬間でした。当時の部員、先生、生徒の皆さんの雲を晴らすようなまぶしい笑顔は今でもよみがえってきます。

このように、行事などで忙しかったので、勉強するのは大変でした。僕は、塾には行っていなかったため、ずっと茨高の授業をベースとして勉強をしました。授業は65分授業で、より深い学びを得られるのが特徴です。自分は化学の実験が好きで、65分あるおかげで、奥深い内容まで実験することができたのがうれしかったです。あと、クラスは文系理系関係ない混合クラスです。僕は古典や地理が苦手だったので、文系の友達によく聞きに行きました。逆に、僕が文系の子に数学や化学を教えることもありました。生徒自身も勉強に対しての意識が高いです。友達に刺激を受け、一緒に勉強したり、問題を出し合ったり、時には数学の難問を一緒に解いて、解法を議論するなどしました。こうした環境で、自分は何とか成績を伸ばすことができ、無事第一志望の大学に合格することができました。

大学では、僕は理系の専門的な知識を学び、研究をする学部で勉強しています。三回生から専門的な勉強が始まるので、今は、基礎的な知識を蓄えるための勉強をしています。大学生になると、自分のことを優しく見守ってくれる担任の先生が存在しないので、自分で何をすべきか考えなければなりません。このような環境下でも、僕は、茨木高校で培った、自分で考え、行動する力のおかげで、メリハリのある大学生活を送ることができています。

最後になりますが、僕は、茨木高校で、先ほど述べたような、たくさんの経験をし、たくさんの仲間と出会うことができました。そんな思い出の詰まった茨木高校が僕は大好きです。もし保護者の娘さん、息子さんが茨木高校に入学するならば、きっと、一生の思い出として刻み込まれる、濃密な三年間を過ごすことができると思います。ご清聴ありがとうございました。